

華やかさの奥に隠されているもの

校長 武井 正明

21日土曜日は、長岡市体育館に終日詰めた。

メインフロアは、男子バレーボールで吉中が奮闘した。決勝で惜しくも敗れはしたが、まだ県大会の大舞台が残されている。自分たちの課題を、技術面、精神面から見つめ直して、さらなる飛躍に期待したい。

体育館の脇道を少し進むと体操の会場があった。そこに2年生の彼はいた。

普段の学校生活で彼の演技を見ることは、もちろんない。彼はスポーツ団で日々練習に励んでいる。

会場で彼を知る、私の大先輩にお話を伺った。

「指導者の方は、ひじょうにきれいな体操を教えておられる方です。彼も、とても一生懸命真面目に練習に取り組んで、着実に力を着けてきていますよ」と目を細められた。

入るとすぐに床の演技が始まった。しっかりと片足で静止してポーズを決める。一瞬時が止まったような次の瞬間、今度はいきなり体ごと急加速して空中で回転する…。とても人間業とは思えない。

床を終えたところで、彼は私に気づいた。手を振ってにっこり笑う余裕の表情だ。

去年よりも顔つきが大人っぽくなり。背丈も伸びた。一年という時間を想う。

次の跳馬は圧巻だった。ぐっと加速して力強く踏み切ると、大きく空中で弧を描くように回転して、見事に着地、思わず息を呑み、拍手が出る。

鉄棒も二の腕でしっかり身体を支え、ぐるぐる廻し、スピード0の状態から遠心力がぐんぐん増して、体ごと放り投げるように跳ぶ。これもまた着地がぴったり決まった。

午後の鞍馬は一見地味に見える種目。しかし、これが実はかなり難度の高い種目だと会場の関係者からお聞きした。

練習の段階で、ちょっとしたタイミングのずれで頭から転倒したり、途中で動きが止まってしまったり。本番でも失敗する選手が多い中、彼は見事に一連の動きでまとめた。

どの種目も一朝一夕にできるものなどない。華やかな演技の根幹には、気の遠くなるような、基礎の積み重ねと反復練習と数えきれない失敗がある。

素晴らしいものを見せてもらった。上からお母さんと弟さんが一緒に応援していた。来年吉中生になる彼の兄貴を見つめる瞳も、キラキラ輝いている。

「あなたも体操やるんだ。頑張ってるね。待ってるよ」笑顔で頷く。

来年の兄弟の競演が、今から楽しみだ。